

講演会

「アンデス巨大電波望遠鏡で探る宇宙の始まり」

宮脇亮介

〈福岡教育大学 〒811-4192 福岡県宗像市赤間 729-1〉
e-mail: miyawaki@fukuoka-edu.ac.jp

LMSA/ALMA の実現のためには研究者の努力はもちろんですが、この装置は国民の税金により建設されます。今回は研究者相手ではなく、一般の方々に LMSA/ALMA 計画の内容を知っていただくことを目標として 10 月 14 日に開催された講演会の様子を紹介いたします。

近年研究の成果を広く一般に知ってもらうことが重要視され、国立天文台をはじめとする多くの研究機関などでの研究所公開が行われ、研究についての説明が行われています。

LMSA 計画を推進するにあたって研究者や関連の人たちの役割は大変重要ですが (ATACAMA 便り 福井氏、浮田氏の記事参照)、巨額の建設資金を要する巨大科学はその出資者である国民がこのようなプロジェクトに理解を示す必要があります。そこで LMSA 計画について広く知っていただくためにこの講演会が立案され、開催されるまでに半年あまり、世話人の関本裕太郎氏 (国立天文台)、水野 亮氏 (名古屋大学) と私で企画することになりました。それぞれの世話人が離れているので、主に電子メール、電話などを使い、どのくらいの収容人数の会場を借りるべきのかななどを相談し、会場へのアクセスなども含めて限りある予算のなかで納めることのできる会場に決定しました。そして、10 月 14 日に東京都千代田区北の丸の科学技術館内にあるサイエンスホールにて講演会「アンデス巨大電波望遠鏡で探る宇宙の始まりーハワイ島マウナケア山から南米チリ・アンデスへー」を開催することとなりました。当初この講演会は LMSA 公開講演会として企画されましたが、その後「アンデス巨大電波望遠鏡」と



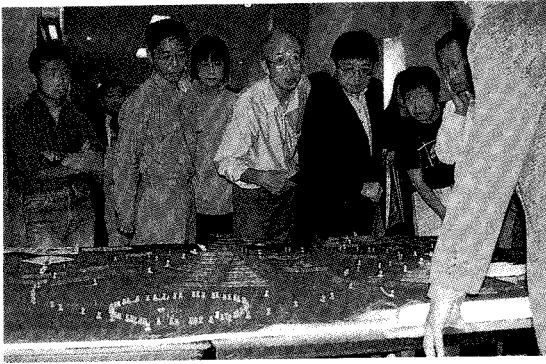
会場の様子

いう愛称を得て、拡張 ALMA (アタカマ大型ミリ波アレイ) に通ずる LMSA (ラムサ) 計画の講演会へと変化していきました。計画の推移については前回の長谷川氏の記事による日米欧による会議により、具体化してきている様子が見て取れます。おそらく、この記事を読んでいる頃には日米欧による「アンデス巨大電波望遠鏡」計画がさらに進展していることでしょう。講演会は電子メールあるいはファックスなどによる事前登録の形式をとりました。

講演会のお知らせについてはポスターの制作などを行い、科学館や学校などに郵送をする一方、国立天文台の広報普及室に雑誌・新聞などへのプレスリリースをしていただきました。また、7 月から 8 月にかけて東京有明で開催されていた「21 世紀夢の技術展」で掲示したのは最後の 1 週間だけですが、この講演会の掲示を出していただきました。

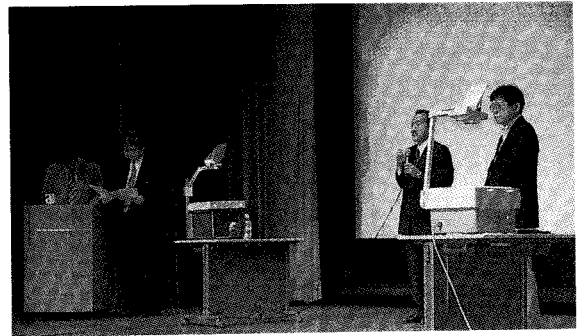
サイエンスホールは座席数約 400 で当初どのくらい集まるか不安でありました。もし、前の方に 20 人くらいしかいなかったらどうしようかなどと。その不安は取り越し苦労で多くの方に登録していただき、当日も盛況な講演会を開催できることになりました。特に、8 月はじめにホームページに掲載するやいなや参加の申し込みがあるなど、常に申し込みがあり、最終的な申し込みは 300 人を越えました。

当日は事前応募の約 8 割の方の参加があり、当日



休憩中 LMSA の模型の前で

参加した人と合わせて 300 名弱ということになってしまいましたが、それでも受付開始の前から多く人が来場し、会場は前のほうから席がうまるなど、大学で講義をしていて学生を前の方に来させることにいつも苦勞している私としては学生もこのくらいの気持ちか…などと思ったりして、参加者は関東地区だけにとどまらずかなり遠方からの方もいました。そのような熱心な参加者を前にして、講演は始まりました。LMSA/ALMA 準備室の阪本成一氏の司会により、国立天文台の観山正見氏に「はじめに」ということで LMSA から ALMA への経過説明、LMSA/ALMA の重要性などを簡単に説明していただきました。次に、東北大学の谷口義明氏に「宇宙の育ち方」という演題で講演をしていただきました。宇宙の進化を説明するためにハッブル深宇宙探査の結果を説明していく中でアンデスの巨大電波望遠鏡が解明してくれるであろう宇宙の進化について非常に楽しく来場者を「谷口氏の宇宙」に引き込みながら、分かりやすく説明をいただきました。10 分間の短い質問時間の後 10 分間の休憩をとりましたが、その間も受付近くのポスターを食い入るように読む方、阪本氏制作のパン・パ・ラボラの干渉計模型のところで、熱心に質問する姿を見ることができました。休憩の後「アンデスの巨大電波望遠鏡—南の宇宙に挑む—」という演題で名古屋大学の福井康雄氏に講演をいただきました。前半に簡単な干渉計の原理について分かりやすい図を用いての説明した後、アンデス巨大望遠鏡の必要性と名古屋大学の「なんてん計画」の成果を合わせてアンデスの巨大電波望



全体の質問の時間
(右から福井氏、谷口氏、観山氏、阪本氏)

遠鏡が明らかにしてくれるだろう銀河系内の天文学についてお話していただきました。長い講演時間中熱心にメモを取る姿をみながら、関心の高さにびっくりさせられました。

講演会の最後とにかく講演だけになり、質問の時間がほとんどないということのをさけるため、質問の時間を多めに設定しました。講演者の研究対象について聞いたものや、「この計画はどのくらいのお金がかかるのか」とか「チリでの大気ゆらぎ」の問題についてなどのような専門的な質問や「いつ頃天文学者になろうと思ったか?」、「どうしたら天文学者になれるか」などについての回答でわれわれもなかなか聞けない講演者のプライベートな一面も見ることができました。ただ、多めの時間を設定したにも関わらずたくさんの質問があり、時間の都合上お答えすることができませんでした。当日の質問に対して答えはこの記事をみなさんがごらんになる頃には LMSA のホームページ (<http://www.nro.nao.ac.jp/~lmsa>) に載せているはずで(たぶん)、アンケートもぎっしりと回答されておりこれらの結果についても次回の講演に生かしていきたいと思います。

今回この講演会を我々が企画したわけですが、科学館などで是非「アンデス巨大電波望遠鏡」についての講演を行いたいのだがという方がいましたらどうぞ気軽に問い合わせ下さい。

最後にこの講演会は国立天文台の広報室の皆様をはじめとして多くの方には多大な援助をいただき開催できたことを感謝します。